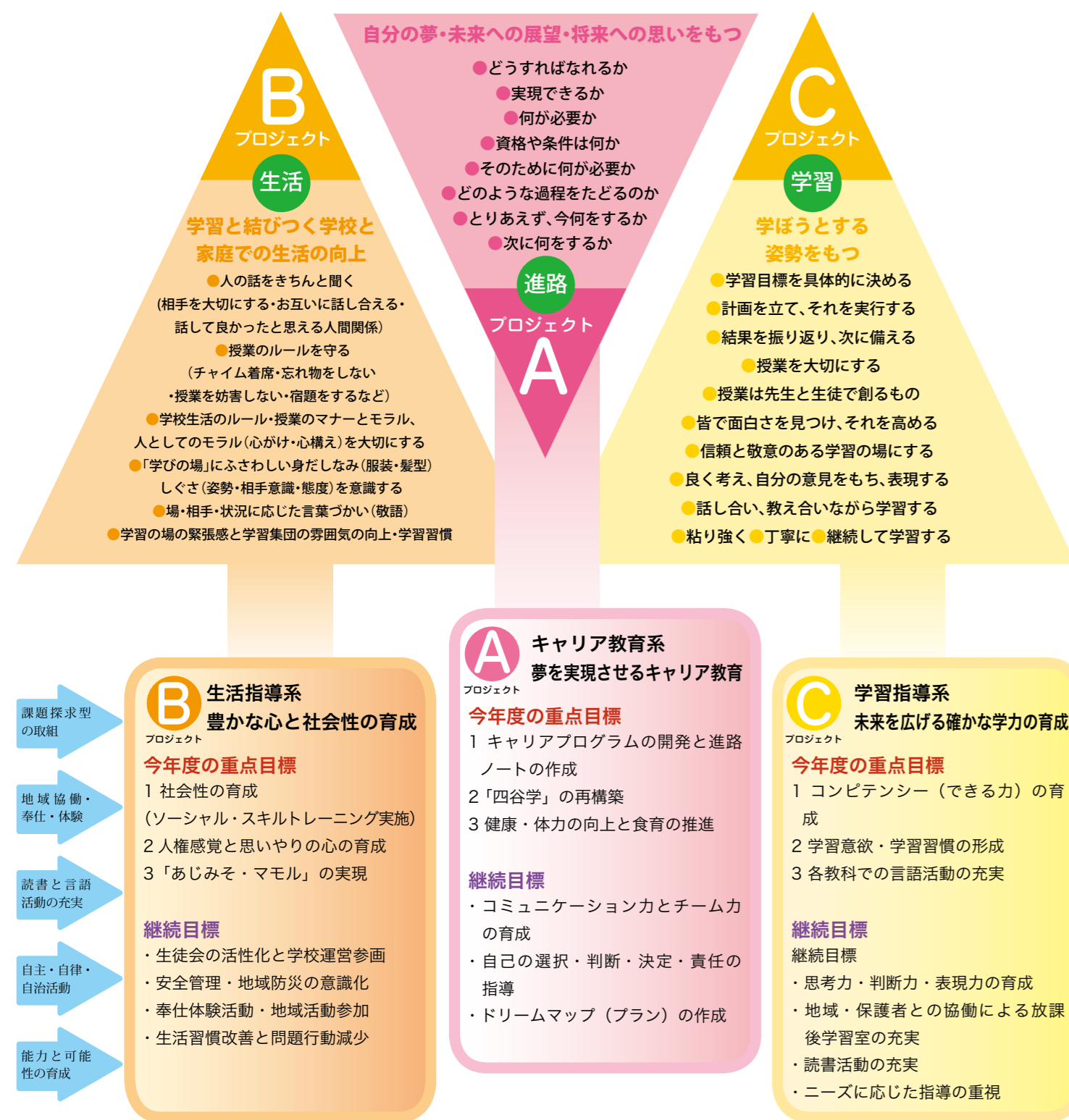


研究構想図：研究テーマ学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める



学校運営協議会の取り組み(地域学校力の強化)

- 今年度の重点目標**
1. 職場体験・職場訪問・「四谷学」などでの地域連携の充実
 2. 安全管理・地域防災の取り組みの組織化
 3. 学校評価および学校の広報活動の支援と各種学習室の運営

- 継続目標**
- 100の事業所・支援者の獲得
 - 生徒との協働及び問題行動減少に向けた取り組みの促進
 - 学校支援の仕組みや組織の継続的検討
 - 学校の教育活動への一層の参画と地域協働の推進

協働による学校改革の概念図



生徒一人一人の能力と可能性の追求

- キャリアガイダンスと自己キャリアマップの作成
- ソーシャル・スキルとコミュニケーション力の育成
- コン・ピテンシー(見通しをもったできる力)の育成
- 個人プロフィール(特性)の作成で良さを伸ばす

本校の歩み

- 平成 18・19 年度
 平成 19 年度
 文部科学省「コミュニティ・スクール」調査研究校に指定
 地域協働学校推進事業実施要綱の制定 第1次実行計画
 四谷中学校のモデル校指定
 研究発表 主題「都市型コミュニティ構築に向けての学校の在り方」
 地域協働学校推進モデル校に指定
 地域協働学校運営協議会に関する規則の制定
 研究発表 主題「四谷の町を基盤とした地域協働学校の構築」
 地域協働学校に指定
 新宿区教育委員会研究発表校に指定
 研究発表 主題「学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める」
- 平成 20・21 年度
 平成 21 年度
 地域協働学校運営協議会に関する規則の制定
 研究発表 主題「四谷の町を基盤とした地域協働学校の構築」
 地域協働学校に指定
 新宿区教育委員会研究発表校に指定
 研究発表 主題「学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める」
- 平成 22 年度
 平成 23・24 年度
 平成 24 年度
 地域協働学校に指定
 新宿区教育委員会研究発表校に指定
 研究発表 主題「学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める」

四谷中学校は平成13年に四谷第一中学校と四谷第二中学校の統合により開校しました。その後、平成18年度に文部科学省のコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)調査研究校になりました。四谷地区は町会をはじめとする育成会、同窓会、地域基盤の強さがあり、地域・保護者・学校が一致協力して四谷中学校に通う子どもたちの教育に当たることができました。

平成18・19年度は「都市型コミュニティ構築に向けての学校の在り方-新宿区が推進する都市型コミュニティ構築に向けて-」を研究主題として、地域の人材活用、四谷学(総合的な学習の時間)の実践、地域活動への参加等を通して基礎学力の定着と個性を生かす教育の充実を図り、「地域協働学校」としての基礎を培いました。

平成20・21年度は、新宿区地域協働学校推進モデル校として「四谷の町を基盤とした地域協働学校の構築-学校と保護者・地域が双方向から子どもたちの確かな学びと育ちをはぐくむ-」を研究主題として、

学校・家庭・地域が一体となって地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりをねらいとして研究を進めました。保護者や地域社会の人々の積極的な参加や協力により、地域との一体化を強めることができました。同時に学校運営協議会を通して、学校・保護者・地域とのつながりを強めることができました。

平成22年度に地域協働学校の指定を受け、平成23・24年度は新宿区教育委員会研究発表校として「学校と地域で地域のマネジメント力を高める」を主題に過去5年間の研究をさらに発展させ取り組みました。生徒のライフマネジメント力を高めるプロジェクト、①キャリア教育系、②生徒指導系、③学習指導系の3つのプロジェクトを核とし、それぞれのプロジェクトが地域とかわかり、学校と地域で生徒のライフマネジメント力を高める実践を行っております。

7年間の研究を通し、保護者・地域・学校の一体化は強まり、3者の目指す方向性が着実に一致するようになりました。生徒の「生きる力」の育成を目指し、地域協働学校としての実践をこれからも推進して参ります。



平成23・24年度新宿区教育委員会研究発表校

地域協働学校 新宿区立四谷中学校

研究主題

学校と地域で生徒の ライフマネジメント力を高める

校長 吉田 和夫

本校のささやかな研究にご興味をおもちいただきましたこと、研究発表会においていただきましたことに、深く感謝申し上げます。

本校は平成18年度からコミュニティ・スクールに関する研究調査を行ってまいりました。詳細については、リーフレット裏面及び同封のCD-ROMをご参照いただければと存じますが、平成22年度より正式に地域協働学校(新宿版地域運営学校)として指定を受け、実践を展開してまいりました。

本研究は平成23・24年度新宿区教育委員会研究発表校として、様々な実践に取り組んだことをまとめたものです。

発表を行うにあたり、本校の目指した方向について、5点申し上げます。

- 1 地域協働学校(コミュニティ・スクール)としての取り組みであること
- 2 学校全体としてプロジェクト型の取り組み(3プロジェクト)を推進したこと
- 3 特別なことでなく、どの学校でも可能な日常の取り組みを取り上げたこと
- 4 簡潔で明確な成果と課題を、生徒の姿を通して示すこと
- 5 本実践研究が他校で活用できるよう、画像を含めた資料をCD-ROMにより配布すること

研究テーマである「ライフマネジメント」とは、「生きる力」の中核である、自らの人生(進路・生活・学習)を自らの力で高める営みです。本研究を通して、これらの力をどのように地域や学校で培っていくか、皆様とともに考える機会と場が提供できれば幸いです。

『地域と学校の関わり』

学校運営協議会 会長 高山 俊達

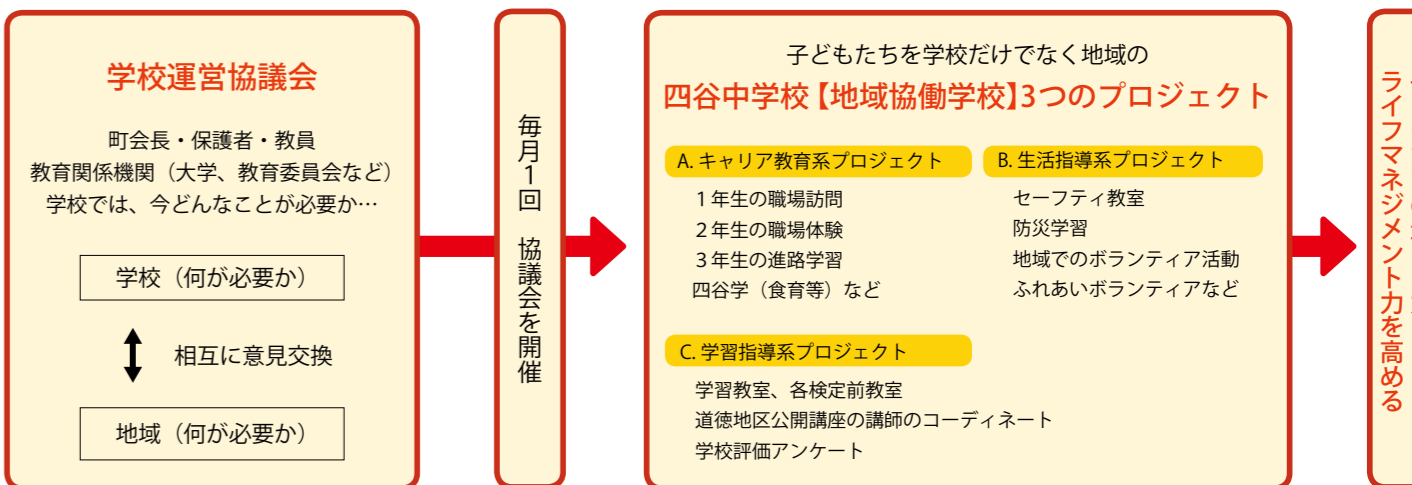
地域の子ども達に対する思いは、豊かな個性を発揮してよりよい自己の実現を図って欲しい。できればその実現に地域が貢献出来れば、そして将来この地域を支える力となって頂ければ幸いです。

今日、地域への帰属意識が希薄なつたと言われ、積極的に意識の向上を図る行動に取り組む必要を感じているところです。地域行事の周知を強気に推進し、住民の参加を促すことに力を入れていきます。特に将来の担い手である子ども達を応援・援助しながら、地域をより深く知り、さらに地域とのかかわりを強くもってほしいと思います。「共に、育ち、暮らし、生きる」を目標にしながら。

また、教育の場である学校において、地域が教職員の皆様と共に生徒たちの生活に関われることにより、より大きな効果を得られるものと考えます。地域協働学校である四谷中学校で学校運営に参画し、地域で発揮出来る地域力(他地域文化の紹介、将来を見据えた職場体験・訪問、部活動の援助、ボランティア活動の推奨、学校評価、地域環境の整備)を提供出来れば、生徒の皆さんに「協働の活動」を認識して頂けるものと確信します。学校の皆さんと力を合わせて、子ども達の揚々たる将来と、地域のよりよい発展を目指して。



学校運営協議会の組織と活動



プロジェクト A キャリア教育系

夢を実現させるキャリア教育

1 概要

人間性、可能性、能力を引き出すキャリアプログラム開発

- (1) 働くことの意義や喜び、苦勞などを知り、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。
- (2) 社会性を高め、自己の生き方について考えさせる。
- (3) 自己の進路を主体的に考え、個性・適性を活かした進路選択を促す。
- (4) プロジェクト型学習の発想を取り入れ、現段階でのゴールを設定し、それを達成するためのビジョンを構築する。

四谷学の見直しと再構築

- (1) 職業という観点を中心に、本校に適したキャリアプランを展開する。
- (2) 家庭や学校だけでなく、地域との交流を通して自己理解を深める。
- (3) 1 学年に職業調べ、職業インタビュー、職場訪問などで働くことの意義や役割職業への理解を深める。
- (4) 2 学年に職場体験を行い、働く意義や社会での役割などを体験的に学ぶ。

(5) 2 学年後半からは確実な将来設計に基づいた進路選択をさせる。

3 年間の「進路ノート」作成四谷学の見直しと再構築

- ① 1 学年からポートフォリオの作成を継続させ、情報を収集させる。
- ② 各学習後の活動に体験報告や報告書の作成させ、表現活動の育成を図る。
- ③ これらの活動を通して、課題を自主的に解決する能力を培う。

2 実践報告

- (1) 学校運営協議会と連携した、地域の事業所 40 カ所以上での職場体験の実践。
- (2) 学校運営協議会と連携した、地域の事業所 20 カ所以上での職場訪問の実践。
- (3) 地域の教育力を活用した食育の推進。
- (4) 職場体験・職場訪問の報告会や報告書作成の実践。
- (5) ファイルを活用したポートフォリオ作成の実践。

3 成果と課題

成果

- (1) 学校運営協議会との連携が強まり、円滑な協働体制が構築できた。
- (2) 地域における四谷中学校の教育活動への理解と協力が高まり、連携の向上が図れた。
- (3) 様々な資料を基に報告書、新聞作り、報告会で多様な表現方法による発表ができた。

課題

- (1) 体験的学習を通しての、自己課題の設定、自己選択、判断、決定、責任の指導を一層進める。
- (2) 生徒主体の教育活動プログラムの構築を目指す。
- (3) 広報活動を充実させ、保護者・地域の参加を促す。



職場体験 ①



職場体験 ②



職場体験 ③



職場体験 ④



職場体験 ⑤

プロジェクト B 生活指導系

豊かな心と社会性の育成

1 概要

社会性の育成のためのソーシャルスキル・トレーニングの実施。

- (1) 学校運営協議会との連携による地域奉仕活動と防災活動の実施。
- (2) Q-U テストに基づく生徒の社会性の実態調査。
- (3) 地域と協働した生徒会活動。

2 実践報告

- (1) 地域奉仕活動を年間 13 回実施、地域と連携した防災活動を年間 5 回実施。
- (2) 年 2 回の Q-U テストの実施と分析。
- (3) 生徒会活動では、学校運営協議会との意見交換会、四谷地区での春秋交通安全運動、赤い羽根募金活動への参加。

3 成果と課題

成果

- (1) 奉仕活動や防災活動を通して、各年代との交流が生まれ、地域社会への貢献を体験したことで、各自が社会の中で自らの役割を考えるように変容が見られた。
- (2) 2 年間の Q-U テストの実施で生徒の実態がより明確になり、生徒への働きかけの工夫ができ、生徒同士のかかわる力（人とのつながりや気持ちの理解）の向上が見られた。
- (3) 学校運営協議会との意見交換会を実施したことで、学校内だけでなく地域の中で生徒会の果たす役割や地域と生徒をつなぐ取り組み案を考えるようになった。

課題

- (1) 奉仕体験活動及び防災活動の実施における地域との連携の一層の強化を図る。
- (2) 全教員で、Q-U テストの分析の共有化を図り活用する。
- (3) 生徒会活動の活性化と地域との連携をより充実させる。

※ Q-U テスト（心理テスト）を通じてわかること

1 個人についての情報

- (1) 一人一人の子どものたちの研究生活の満足度
- (2) 一人一人の子どものたちの学校生活の意欲

2 学級集団についての情報

- (1) 学級集団としての成熟の状況
- (2) 学級集団の雰囲気

3 学級集団における子どもたちの相対的位置

- (1) 学級生活の満足度に関する子どもたちの相対的位置
- (2) 学級生活の意欲に関する子どもたちの相対的位置



地域奉仕体験活動(ゴミゼロデー)



防災活動(防災MAP 発表会)



防災活動(意見交換会)



地域奉仕活動(保育実習)



生徒会活動(交通安全運動)

プロジェクト C 学習指導系

未来を広げる確かな学力の育成

1 概要

地域と行う確かな学力の育成

- (1) 教科等での言語活動の充実。(朝読書の試み)
- (2) 学習教室の管理・運営・実施。
- (3) ワクワクタイムの計画・設定。
- (4) 道徳地区公開講座の企画・運営・実施。

2 実践報告

- (1) 保護者、学生スタッフを活用した学習教室の実施。
・定期考査前・夏休み・検定試験前。
- (2) 地域図書館との連携。
・ブックトーク・ビブリオバトル。
- (3) 平常授業後の個別プリント学習の実現。
- (4) 地域の有識者を招きキャリア教育を推進する講演の実施。

3 成果と課題

成果

- (1) 学習教室参加により
① 自主的に数学・英語を勉強するようになった。
② 家庭学習の時間が増えた。
③ 授業でわからなかったところがわかるようになった。
④ 検定試験に合格することができた。
⑤ 国語・数学・英語への理解が深まった。
⑥ 定期考査の点数が上がった。
- (2) 主体的な読書活動が実現
① 1 カ月の読書冊数が増えたなど主体的な読書活動が実現できた。
③ ワクワクタイムのプリント学習により各教科の理解度を自己診断できた。
- (3) 進路選択の方法が明確になることで進路への不安感などが減少した。

課題

- (1) より多くの学習教室の開催。
- (2) 各種検定資格取得者、並びに自発的な学習意欲の増加に向けてさらなる学習教室取組みの推進。
- (3) 各授業および朝読書における図書館司書との更なる密接な連携方法の模索。
- (4) ワクワクタイムのプリント学習を通じて、課題が明らかになった生徒の学習教室案内。



朝読書



ブックトーク



学習教室



道徳地区公開講座



ビブリオバトル

新苑学級

人や社会と関わる力の育成

プロジェクト A キャリア教育系

プロジェクト B 生活指導系

プロジェクト C 学習指導系

概要

- ① 自主・自立の態度の育成
- ② 生徒の適性・可能性の開発

- ① 自分らしさとコミュニケーション能力の育成
- ② 社会生活に必要なソーシャルスキルの育成

- ① 社会生活に必要な基礎学力の育成
- ② 一人「ひとりの特性に応じた能力開発

実施

- ① 職場見学
・特例子会社（清掃業務）
- ② 職場体験学習
・ファミリーレストラン
・スーパーマーケット
- ③ 卒業生の話聞く
・南大沢学園 1 年生
・中野特別支援学校 1 年生と 2 年生

- ① 作業学習（農作業）
・田植えと稲刈り
・畑の雑草取り
- ② 餅つき会
・臼・杵の手配
・当日のサポート
- ③ 竹トンボ作り
・手作り

- ① 道徳地区公開講座
・地域で店を経営している方の話「仕事で大切なこと」
- ② 学習教室
・漢検教室
- ③ 四谷図書館との連携
・ブックトーク
・図書館見学



職場体験



稲刈り



道徳地区公開講座

成果と課題

成果

- ① 職場見学や体験学習を通して、働くことの意味や厳しさなど理解を深めることができた。
- ② 卒業生の話から、自分の適性・可能性を考えることができた。

課題

一人ひとりの特性に応じた個別指導計画に基づき、系統的・継続的な取り組みができるようなシステム作りが課題である。

成果

- ① 地域の方とのかかわる中で、コミュニケーション能力を高めることができた。
- ② 挨拶などソーシャルスキルを身につけさせることができた。

課題

学級担任の異動による実施の中断がないように実施の記録を保存し、継続していくことが課題である。

成果

- ① 漢検教室など学習教室で社会生活に必要な基礎学力を伸ばすことができた。
- ② 図書館見学や地域の方の話を通して、社会に関心を持ち自分の可能性を広げる機会となった。

課題

一人ひとりの特性に応じた基礎学力と様々な能力の可能性を伸ばすための企画の工夫が課題である。